

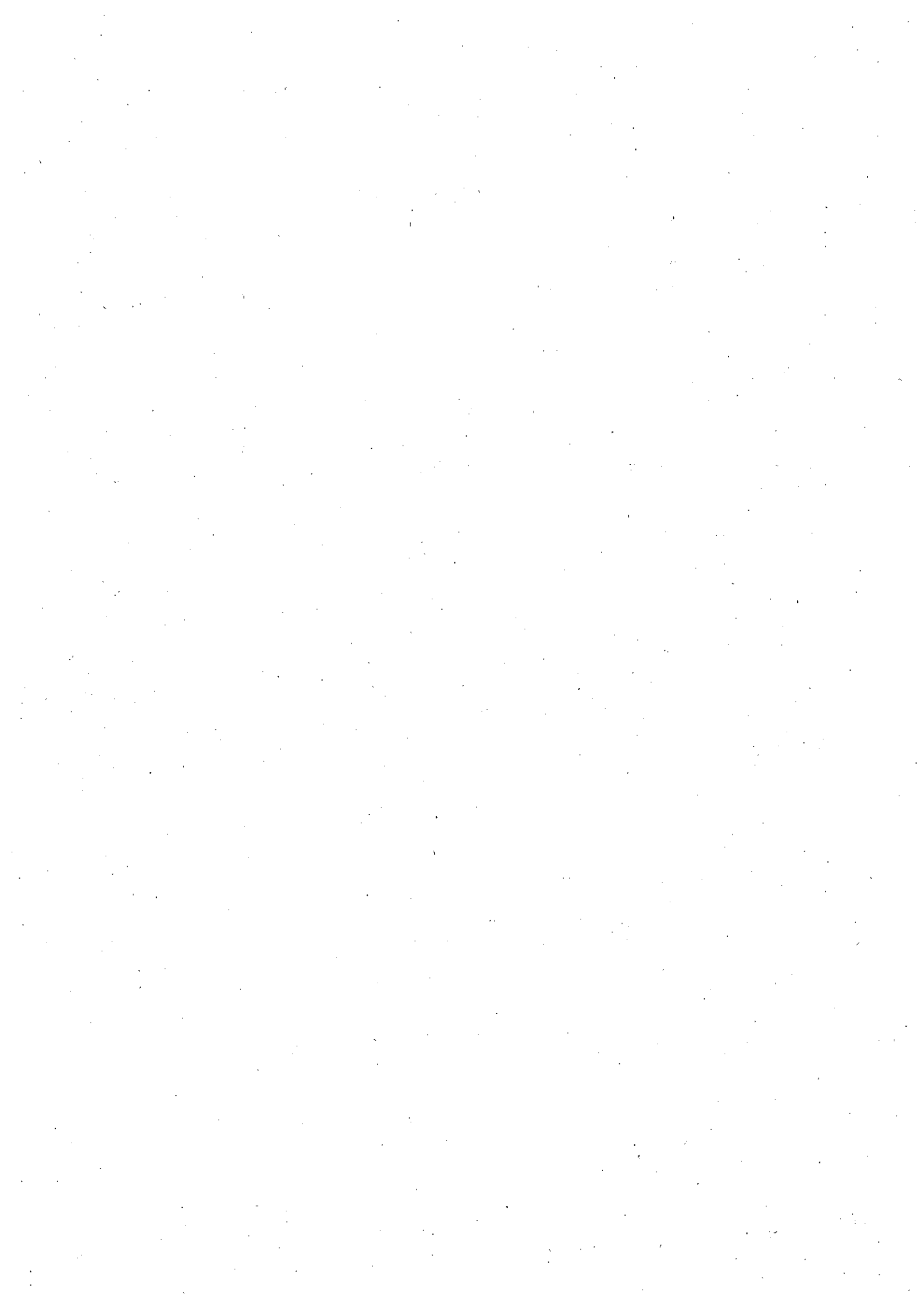
三重県競技力向上対策本部

第10回競技力向上対策委員会



平成30年3月14日（水）

プラザ洞津 孔雀の間



三重県競技力向上対策本部
第10回競技力向上対策委員会 資料目次

- 三重県競技力向上対策本部第10回競技力向上対策委員会 会議次第 P 3

- 説明・報告事項【公開】
 - (1) 三重県競技力向上対策本部会議等に係る開催経過 P 7
 - (2) 三重県競技力向上対策本部第9回競技力向上対策委員会に係る概要 P 9
 - (3) 平成29年度競技力向上対策事業に係る実施報告及び成果 P 12

- 協議事項【非公開】
 - ・ 育成期3年目における競技力向上の取組について P 15

- 審議事項【非公開】
 - ・ 平成30年度競技力向上対策事業（案）について P 19

- 参考資料
 - ・ 三重県競技力向上対策委員会規程 P 23
 - ・ 三重県競技力向上対策本部 競技力向上対策委員会名簿 P 25

三重県競技力向上対策本部
第10回競技力向上対策委員会 会議次第

平成30年3月14日(水)
プラザ洞津 3階 孔雀の間

1 開 会

2 挨拶

3 説明・報告事項【公開】

- (1) 三重県競技力向上対策本部会議等に係る開催経過
- (2) 三重県競技力向上対策本部第9回競技力向上対策委員会に係る概要
- (3) 平成29年度競技力向上対策事業に係る実施報告及び成果

4 協議事項【非公開】

- ・育成期3年目における競技力向上の取組について

5 審議事項【非公開】

- ・平成30年度競技力向上対策事業(案)について

6 閉 会

説明・報告事項

3



三重県競技力向上対策本部会議等に係る開催経過

| 年月日 | 内 容 |
|-----------------|---|
| 平成23年 11月15日 | 県、県教育委員会、財団法人三重県体育協会の連名により、文部科学省、公益財団法人日本体育協会に開催要望書を提出しました。 |
| 平成24年 1月11日 | 公益財団法人日本体育協会理事会にて、平成33年第76回国民体育大会の開催地として内々定されました。 |
| 平成25年 5月29日 | 三重県競技力向上対策本部「設立会議」、「第1回本部会議」を開催しました。 |
| 6月 3日 | 三重県競技力向上対策本部「第1回競技力向上対策委員会」を開催しました。 |
| 11月19日 | 三重県競技力向上対策本部「第1回成年選手強化専門委員会」を開催しました。 |
| 12月13日 | 三重県競技力向上対策本部「第1回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。 |
| 12月16日 | 三重県競技力向上対策本部「第1回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。 |
| 平成26年 3月24日 | 三重県競技力向上対策本部「第2回競技力向上対策委員会」を開催しました。 |
| 4月22日 | 三重県競技力向上対策本部「第2回本部会議」を開催しました。 |
| 10月 1日 | 三重県競技力向上対策本部「第3回競技力向上対策委員会」を開催しました。 |
| 11月13日 | 三重県競技力向上対策本部「第2回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。 |
| 11月19日 | 三重県競技力向上対策本部「第2回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。 |
| 11月19日 | 三重県競技力向上対策本部「第2回成年選手強化専門委員会」を開催しました。 |
| 平成27年 3月19日 | 三重県競技力向上対策本部「第4回競技力向上対策委員会」を開催しました。 |
| 4月23日 | 三重県競技力向上対策本部「第3回本部会議」を開催しました。 |

| | |
|----------------|--|
| 9月 4日 | 三重県競技力向上対策本部「第5回競技力向上対策委員会」を開催しました。 |
| 11月4日 | 三重県競技力向上対策本部「第3回成年選手強化専門委員会」を開催しました。 |
| 11月16日 | 三重県競技力向上対策本部「第3回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。 |
| 11月25日 | 三重県競技力向上対策本部「第3回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。 |
| 平成28年 3月24日 | 三重県競技力向上対策本部「第6回競技力向上対策委員会」を開催しました。 |
| 4月18日 | 三重県競技力向上対策本部「第4回本部会議」を開催しました。 |
| 7月20日 | 公益財団法人日本体育協会理事会にて、平成33年第76回国民体育大会の開催地として内定されました。 |
| 9月14日 | 三重県競技力向上対策本部「第7回競技力向上対策委員会」を開催しました。 |
| 11月16日 | 三重県競技力向上対策本部「第4回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。 |
| 11月16日 | 三重県競技力向上対策本部「第4回成年選手強化専門委員会」を開催しました。 |
| 11月22日 | 三重県競技力向上対策本部「第4回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。 |
| 平成29年 3月23日 | 三重県競技力向上対策本部「第8回競技力向上対策委員会」を開催しました。 |
| 4月18日 | 三重県競技力向上対策本部「第5回本部会議」を開催しました。 |
| 10月30日 | 三重県競技力向上対策本部「第5回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。 |
| 10月31日 | 三重県競技力向上対策本部「第5回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。 |
| 10月31日 | 三重県競技力向上対策本部「第5回成年選手強化専門委員会」を開催しました。 |
| 11月20日 | 三重県競技力向上対策本部「第9回競技力向上対策委員会」を開催しました。 |

三重県競技力向上対策本部第9回競技力向上対策委員会に係る概要

平成29年11月20日(月) 14:00~16:00

ホテルグリーンパーク津 6階 藤・萩の間

1 えひめ国体の結果を受けての今後の目標について

- ・目標値の議論は非常に重要である。東京一極集中は、今に始まったわけではなく、東京オリパラに向けて加速し、東京が右肩上がりで増えている。東京は今の時点で2,500点獲得しており、このまま右肩上がりで二年経てば、3,000点もあり得る。当初、三重県が目標に設定した2,500点の設定根拠の明確化と振り返りが必要ではないか。成年・少年の男女が何点獲得できるのかをしっかりと各競技の強化育成・スカウト計画とリンクさせながら、理屈に基づいた目標立案が重要である。

2 ジュニア選手及び少年選手の発掘・育成・強化について

- ・ターゲットエイジに対する意識の醸成に関して、今の中学3年生の選手は、三重国体の前年に高校3年生となる非常に重要な学年であるが、小学校の頃から強化を行ってきた選手が、突然県外の高校に進学することになった。日本でも5本の指に入るトップ選手であり、生徒の気持ちが変わらず困っている。県外への流出について、中学校の現場は、「子どもが決めたことだから仕方がない。」と言う。選手の県外流出が現実になり、この先に不安を感じている。良い対策を考えてほしい。
- ・ジュニア期から県内強豪校の試合を見せ、将来自分もこの学校で頑張るという意識付けをする、選手寮を整備し、県外流出防止を図る、中学2~3年生には県外高校での合宿には参加させず、選手に県外高校から勧誘の声がかかるのを防いでいるなどの取組事例がある。
- ・SNSで選手・友達同士が簡単に繋がるので、学校を通さずに高校の先輩などから勧誘の声がかかる恐れがある。選手をどう引き留めるのかが危惧される。
- ・県内の校長会の申し合わせを変えて、中学生に対する進路・勧誘の解禁日を現在の10月1日から前倒しし、中学1・2年生の時から勧誘できるようにしてはどうか。

- ・強化のためにトレーニングで追い込めば追い込むほど、怪我をする選手がおり、日頃からの身体のケアの重要性を感じている。チーム専属のトレーナーなど、きめ細かなサポートがあると有難い。現状では選手任せとなっている身体のケアや栄養系のサポートを行うことにより、意識付けをしていかないといけない。
- ・怪我をした場合、スポーツドクターのいる医療機関で競技を続けながら治療できるところもある。ジュニア期に怪我で1～2年競技を休むとなると、競技力が下がり卒業を迎えることになる。選手・保護者・指導者の一人ひとりに丁寧な対応とサポートをすることで、大事に育てると意識の醸成に繋がるのではないか。
- ・ジュニア・少年選手の育成・強化は、指導者次第である。今いる指導者を集め、如何に養成していくか考えるべきである。国体で得点を獲得しようという意識がどれだけあるのか。指導者の意識をどのように養っていくのか。トップダウンで徹底した指導者への指導が必要だと思う。県外から有力な指導者を呼んでくるのもひとつである。
- ・部活動ガイドラインは、規制ではなく指針であり、目的は生徒の健やかな成長であり、休養日と活動時間の設定などが今年度中に作成される予定である。
- ・早くから選抜チームを作り、学校単位ではなく、競技団体のチームとして取り組んでいく必要があるのではないか。
- ・全ての学校にトレーナーを配置する静岡県の取組や1校に1トレーナーを配置する新潟県の取組があるので、予算が必要となるが、サポート体制構築の参考になるのではないか。
- ・県内の私立学校に国体で得点が獲得しやすい競技のクラブを作り、良い指導者を配置すれば、良い選手も集まるのではないか。

3 成年選手の育成・強化について

- ・強い選手に如何に三重県に来てもらうか。関東に優秀な選手が集まることが多く、若者は都会や便利なところを好むことから、三重県に来てもらうことが難しい状況がある。大学選手を三重県の練習に参加してもらう機会を作るなど試行錯誤している。

- ・指導とスカウトは車の両輪である。スカウト活動が重要で、スカウトは目利きが重要である。東京にスカウト専属の職員を常駐させてはどうか。スカウト活動の全てを自前でする必要はなく、アウトソーシングを活用するなど人脈・情報を駆使してはどうか。予算措置と優秀な指導者の獲得も必要である。
- ・競技団体と定期的な議論の場を設け、強化育成、スカウト活動等の進捗状況の共有・フォロー、新たな環境変化・課題の吸い上げと的確な対応等が必要ではないか。
- ・市町では大会運営の準備は進んでいるが、天皇杯獲得や競技力向上に関する意識は上がっていないと思う。
- ・情報が瞬時に広がる今だからこそ、チームの魅力づくりが大切である。
- ・選手獲得では、魅力的な練習環境と就職先が必要である。選手にとって魅力的な就職先として、公務員はあると思う。教員職や行政職の採用枠やスポーツ指導員の配置数を拡大してほしい。
- ・三重国体に対する認知度が上がっていない。三重県では、伊勢志摩サミットの次は、スポーツが重要として「スポーツイヤー元年」と言っているが、県民の末端まで浸透していないのではないか。強化するためには、予算が必要なので、まずは予算措置をしないとイケない。市町への浸透、市町の本気度もまだまだ不足している。県内の役所、学校、駅、企業、商店、病院等のあらゆる施設に三重国体のポスター・のぼり旗・横断幕を設置するなど、スピード感を持って啓発を強化し、三重国体に向けたマーケティング戦略（ブランド浸透）が必要ではないか。それにより、県市町の予算増額、職員の採用枠拡大、県内企業・県民からの寄付金増額等に繋がるのではないか。
- ・ターゲットエイジやふるさと枠選手の把握を徹底する必要があるのではないか。
- ・自衛隊体育学校の選手獲得を図ってはどうか。
- ・大企業にトップセールスを行い、チームごと三重県に来てもらうことはできないか。

| 事業名 | 対象 | 取組内容 | 成果 |
|--------------------------------|-----------|---|--|
| ① チームみえジュニア育成事業 | ジュニア・少年選手 | 競技団体が行うジュニア選手の育成活動を支援。 | 全国中学校体育大会における入賞件数は15件、全国高等学校総合体育大会における入賞件数は32件であった。 |
| ② チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業 | | 活躍が期待できるジュニア選手を「チームみえジュニア」として指定するとともに、ジュニア、指導者、保護者への研修会を実施。 | 709名の「チームみえジュニア」を指定し、417名の小中学生、385名の保護者、40名の指導者が指定証交付式及び研修会に参加し、チームみえの一員としての意識を醸成した。 |
| ③ ジュニアクラブ強化指定事業 | | 全国大会での活躍が期待できる中学生が所属するジュニアクラブを強化指定し、強化活動を支援。 | 全国レベルの中学生大会での入賞件数は22件であった。 |
| ④ 中学校運動部強化指定事業 | | 全国大会での活躍が期待できる中学校運動部を強化指定し、強化活動を支援。 | 全国中学校体育大会での入賞件数は15件であった。 |
| ⑤ 高等学校運動部強化指定事業 | | 全国大会での活躍が期待できる高等学校運動部を強化指定し、強化活動を支援。 | 全国高等学校総合体育大会での入賞件数は32件、国民体育大会での入賞件数は23件であった。 |
| ⑥ トップジュニア育成事業 | | 世界大会等で活躍が期待できるジュニア選手を「チームみえスーパージュニア」として指定し、強化活動を支援。 | 強化活動の支援により、指定選手の国際大会での入賞件数は9件、全国大会での優勝件数は8件の実績につながった。 |
| ⑦ 女性アスリートタレント発掘・育成事業 | | 優れた資質のある女子ジュニア選手を発掘し、教育プログラムや専門プログラムを実施し、世界大会で活躍する選手を育成。 | 平成29年1月に第1期生6名を指定し、育成を行っている。8月には交流プログラムとして、YAMAGATAドリームキッズと合同キャンプを行った。平成30年1月に第2期生7名を指定し、専門、教育・育成プログラムを開始し育成を行っている。 |
| ⑧ チームみえ国体選手強化事業 | 少年・成年選手共通 | 岩手国体での天皇杯順位10位台、総合得点1,100点の獲得に向け、入賞が期待できる競技団体の強化活動を支援。 | 愛媛国体での入賞件数は67件、天皇杯順位は27位、皇后杯順位は33位。育成期の目標としていた10位台を達成することができなかった。 |
| ⑨ トップ選手育成支援事業 | | 競技団体が行う年間を通じた選手の強化活動や競技の普及活動等を支援。 | 国民体育大会を中心に年間を通じた計画的な強化の支援を行い、競技力の向上を図った。 |
| ⑩ 女性アスリートサポート事業 | | 女性アスリートが抱える諸課題について、指導者の知識習得や意識向上を図るとともに、サポート体制を構築。 | 指導者・選手・保護者等向けの研修会を2回実施し、女性アスリート特有の諸課題についてサポートを行った。 |
| ⑪ 大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業 | 成年選手 | 全国大会で活躍が期待される大学運動部、企業・クラブチームを強化指定し、強化活動を支援。 | 強化指定している陸上競技、ハンドボール競技、馬術競技、弓道競技、ラグビーフットボール競技が国民体育大会で入賞。【入賞件数：10件、獲得得点：78.5点】 |
| ⑫ 東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業 | | 世界大会や国民体育大会等の全国大会で活躍が期待できる成年選手を強化指定し、強化活動を支援。 | 強化指定選手として出場した、相撲競技、レスリング競技が国民体育大会で入賞。【入賞件数：3件、獲得得点：25.5点】 |
| ⑬ トップアスリート就職支援事業 | | 全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートに対し、県内企業への就職支援を実施。 | 7月に広報誌「アスジョブみえ通信」を発行し、アスリートを採用した県内の企業や事業所と採用されたアスリートに関する広報を進めた。県内企業に対し、トップアスリートの採用依頼を行った結果、24名の就職内定を得ることができた。 |
| ⑭ スポーツ指導員配置事業 | 指導者 | 本県選手の競技力向上を図るとともに、現役のトップアスリートとして成年線湯の競技力向上を図ることを目的として実施。 | スポーツ指導員が選手として出場した、水泳競技(飛込)、セーリング競技が国民体育大会で入賞。【入賞件数：3件、獲得得点：18.0点】 |
| ⑮ 強化指定運動部、チーム指導者研修事業 | | 指導者の資質向上に向け、強化指定した運動部・チームの指導者への研修会を実施。 | スポーツ心理学の研修に取り組みすることで、計画的なチームづくりへの意識醸成を図ることができた。 |
| ⑯ 特別コーチ派遣事業 | | 競技力向上に向け、優れた指導者やオリンピック選手を年間コーチ、ワンポイントコーチとして競技団体の強化活動に派遣。 | 特別コーチを派遣した、陸上競技、テニス競技、空手道競技が国民体育大会で入賞。【入賞件数：10件、獲得得点：50.5点】 |
| ⑰ 競技用具等整備事業 | 整備環境 | 競技力向上に向け、強化活動に必要な特殊用具備品を整備。 | 自転車競技、ボート競技、ライフル射撃競技、カヌー競技、セーリング競技に係る備品を整備した。カヌー競技、セーリング競技が国民体育大会で入賞。【カヌー競技、入賞件数：2件、獲得得点：6点 セーリング競技、入賞件数5件、獲得得点：34点】 |
| ⑱ みえのアスリート応援・発信事業 | 啓広発報 | 三重県代表選手を紹介する広報誌の発行及び三重県選手団のポロシャツの作成。 | 7月と12月に広報誌「輝くみえのアスリートNEWS」を発行し、競技力向上の取組や選手の活躍に関する広報を進めた。 |

協議事項

育成期3年目における競技力向上の取組について

審議事項

平成30年度競技力向上対策事業（案）について

參考資料

三重県競技力向上対策委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、三重県競技力向上対策本部規約第11条の規定に基づき、三重県競技力向上対策委員会（以下「委員会」という。）の組織および運営に必要な事項を定める。

(業務)

第2条 委員会は、本部会議から付託および委任された専門的な事項について、調査・審議する。

(役員)

第3条 委員会に次の役員を置く。

(1) 委員長 1名

(2) 副委員長 若干名

2 役員は、本部長が委嘱する。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(委員)

第4条 委員は、次の各号に掲げる者のうちから本部長が委嘱した委員をもって構成する。

(1) 県関係者

(2) 市町関係者

(3) 産業・経済関係者

(4) 学校・スポーツ団体関係者

(5) 学識経験者

(6) その他本部長が特に必要と認める者

(委員の任期)

第5条 委員及び役員の任期は、本会の目的が達成された日までとする。ただし、委員が就任時の所属機関及び団体等の役職を離れた場合、その委員は辞任したものとみなし、その後任者が前任者の残任期間を務めるものとする。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席がなければ開会できない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 委員長が必要と認めるときは、委員以外に専門的知識を有する者の出席を求め、必要に応じて専門委員会を開催し、意見を聞くことができる。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が本部長の承認を得て別に定める。

附 則

この規程は、平成25年5月29日から施行する。

三重県競技力向上対策本部 競技力向上対策委員会名簿

(委員長：1名、副委員長：1名、委員：21名、計：23名)

【委員長：1名】敬称略

| 選出区分 | 所属機関・団体・役職名 | 名前 |
|------|------------------|-------|
| 県関係 | 三重県地域連携部スポーツ推進局長 | 村木 輝行 |

【副委員長：1名】敬称略

| 選出区分 | 所属機関・団体・役職名 | 名前 |
|-----------------|------------------|-------|
| 学校・スポーツ 団体関係 | 公益財団法人三重県体育協会理事長 | 東地 隆司 |

【委員：21名】敬称略、順不同

| 選出区分 | 所属機関・団体・役職名 | 名前 |
|-----------------|----------------------------------|-------|
| 県関係 | 三重県教育委員会事務局次長 | 辻 善典 |
| 市町関係 | 伊勢市産業観光部国体推進課長 | 松葉 清高 |
| | 東員町教育委員会事務局社会教育課長 | 石川 清 |
| 産業・経済関係 | 株式会社エクセディ執行役員グローバル人材開発本部長 | 山村 佳弘 |
| | 株式会社デンソー大安製作所長 | 堀 誠 |
| | 本田技研工業株式会社生産本部鈴鹿製作所 生産業務部総務課長 | 矢野 功二 |
| | 相好株式会社代表取締役 | 山本 将之 |
| 学校・スポーツ 団体関係 | 公益財団法人三重県体育協会強化・普及委員会委員長 | 浦田 安 |
| | 三重県中学校体育連盟理事長 | 太田 秀樹 |
| | 三重県高等学校体育連盟理事長 | 藤田 隆司 |
| | 鈴鹿市立神戸中学校剣道部顧問 | 北林奈津子 |
| | 県立宇治山田商業高等学校陸上競技部顧問 | 小池 弘文 |
| | 県立朝明高等学校レスリング部顧問 | 橋爪 幸彦 |
| | 県立四日市中央工業高等学校サッカー一部顧問 | 樋口 士郎 |
| | 三重高等学校ソフトテニス部顧問 | 神崎 公宏 |
| | 皇學館大学柔道部監督 | 佐藤 武尊 |
| | 三重バイオレットアイリス監督 | 櫛田 亮介 |
| | 三重県水泳連盟強化責任者(競泳) | 八田 知宏 |
| | 三重県ボート協会理事 | 丸山 亮太 |
| 学識経験 | 社会医療法人峰和会鈴鹿回生病院院長 | 加藤 公 |
| | 日本体育大学体育学部教授 | 杉田 正明 |



三重とわか国体

第76回国民体育大会

ときめいて人 かがやいて未来 2021